

## 第4回男女共同参画審議会 会議概要

### 1 開催日時・場所

平成29年8月3日（木）14時00分～16時00分  
滋賀県大津合同庁舎7階7B会議室

### 2 出席委員（五十音順、敬称略）

石部大史、伊藤公雄、川口章、國松典子、小山英則、斎藤真緒、立石豊、廣瀬香織、堀裕子、宮本一幸

### 3 議題

（1）パートナーシッププラン2020の実施状況と評価について

資料1 パートナーシッププラン2020進捗状況

（2）男女の人権尊重と安心して暮らせる社会づくりについて（話題提供と意見交換）

資料2 斎藤委員資料

資料3 國松委員資料

資料4 伊藤委員資料

（3）国勢調査の結果について

資料5 国勢調査結果概要（M字カーブ、女性管理職比率）

（4）今後の審議会の活動方針について

資料6 今後の審議会の活動方針について（案）

(事務局) 本審議会は滋賀県男女共同参画審議会規則第3条第3項の規定により、委員の過半数の出席が必要となっているところ、本日は委員総数14名中10名出席のため本審議会は成立していることを報告する。また、本審議会については、第1回会議において原則公開の旨確認している。議事録についても、委員に確認いただいた上で、ホームページ等で公開する。

(事務局) 以後の進行については、会長にお願いする。

(会長) 議題1「パートナーしがプラン2020の実施状況と評価について」事務局より説明をお願いします。

(事務局) 資料1に基づき説明。

(会長) 説明内容について質問意見があればお願いします。

(委員) 女性活躍認証企業については国のえるぼしのことか。滋賀県独自か。

(事務局) 独自である。

(委員) 昨年と比較して非常に増えていて喜ばしいことであるが、どのような要因か。どのような施策の効果があったのか。

(事務局) 平成27年度中に制度化した認証制度が通年化したことに加え、認証制度のメリットの一つである「建設工事の入札参加資格のポイント加算」が加わったのが大きいと考えている。認証企業のうち、業種別では7割が建設業となっている。

(委員) 若者向けDV防止啓発DVDの活用については増えているが、活用していない学校については何か理由があるのか。

(事務局) デートDVの啓発用DVDであるが、活用していない理由については調べてお答えする。  
【授業時間の確保が困難であることが要因と考えられる。】

(委員) 附属機関の女性委員が0の審議会はどのくらいあるのか。どのような委員会か。

(事務局) 平成28年度末時点では1あったが、6月に当該附属機関に委員が入られ、現時点では0である。

(委員) マザーズジョブステーションについて湖北地域で新たに6月から出張相談を開始し

たとあるが、利用状況を教えて欲しい。また、場所も教えて欲しい。

(事務局) 利用状況であるが、月に1度のセミナーを先日開催したところであるが、夏休み期間ということもあり、数名の参加。相談はもう少し多いと思うが直近の数値を集計し報告する。【相談：6月～7月 11人】

場所については長浜市の風の街で、子育て応援カフェ Loco という、子育て中の方が集まられるところ。

(会長) 議題2として、計画に定めている三つの重点施策の3つ目、男女の人権尊重と安心して暮らせる社会づくりについて、意見交換をしたいと思う。

(会長) 議論するにあたって、本日、斎藤委員、國松委員、そして私から話題提供をさせていただく。発表後意見交換をしたい。

・斎藤委員 発表

・國松委員 発表

・伊藤委員 発表

(会長) 説明内容について質問意見があればお願いします。

(なし)

(会長) 議題3「国勢調査の結果について」事務局より説明をお願いします。

(事務局) 資料5に基づき説明

(会長) 説明内容について質問意見があればお願いします。

(委員) 女性管理職比率について、徳島県が1位を続けている理由というのはあるのか。

(事務局) 完全な分析ではないが、徳島県はまず、M字カーブの落ち込みが少なく、女性の継続就労が進んでいる点の一つ。もう一つは経済構造の違い。全国的に見て、製造業の女性管理職比率が低く、一方で、徳島県等では、医療、介護、福祉の従事者比率が比較的高く、これらの業種は女性管理職比率が高い。このような産業構造の相違も大きな要因として考えられる。

(会長) 家族経営、零細企業等で高い割合が出ることもある。夫が社長、妻が副社長というように。そのようなこともあるのではないかと。大企業だと低くなると思うので。

(事務局) 斎藤先生にお聞きしたい。男性の介護のネットワーク化について、行政としてどのようなアプローチの仕方があるのか。また、ネットワーク化の方法があるのか。

(委員) 男性介護ネットでも、それぞれの全国の団体がどんな活動をしているかということ調べているが、一般的に言われているのが、介護者の会を開くと女性が多く参加していて男性が入りづらいということがある。また、女性はお茶とお菓子があれば話が盛り上がるが、男性はすぐに自分のことを話すことがなかなかできない。そのため、それぞれの団体でいろいろ工夫されている。学習会・勉強会形式としたり、料理教室をしたり、介護実習とか、知識を習得するとかいう内容を挟むことが比較的有効。そしてその後に座談会、場合によっては飲み会を設定すると、そこが大変有意義ということで参加される方もある。男性が踏み出しやすいネットワーキングの仕方というのは工夫する必要があるのではないかと思う。マザーズジョブステーションに少し関わるが、女性の妊娠出産後の再就職だけではなくて、介護離職してしまう人が男女問わず増えているので、そういう方の職業訓練などにより、その後の再就職をフォローアップするなど、介護中あるいは介護によってリタイアした人に対して再就職を促す仕組みづくりを、行政で行ってもらうことが大切ではないか。

(委員) 斎藤委員に質問であるが、男性介護ネットさんで介護と仕事の両立の話が出てきたが、例えば企業で期待され出世を目指している人であっても、介護の必要が出てくると長時間働けないと感じられる人が多いと思うが、介護と仕事の両立の観点で、特に中堅やベテランの男性をフォローするような取り組みをされていることがあれば教えていただきたい。

(委員) 私どもの団体だけではなく、介護離職ゼロということで全国ネットワークを作って他の介護者団体などと連携して取り組ませていただいております、介護者支援法の設置に向けて、ということで全国的に動いている取り組みもある。働き方について言えば、育休では女性が80%を超えていると思うが、一方で介護休業の利用率は全国平均で3%に過ぎない。これは、介護と育児のケアの質の違いがあると思っている。介護の場合、先の見通しが立たないので、まとめて休むということができないため、産休・育休というある程度定型化されたものとは違うと思っている。1日単位で休める介護休暇という制度が2012年から始まっており、(まとまった期間の休業である)介護休業よりもこちらの利用率の方が高い。半日、あるいは1時間2時間といった細切れで休みながら、仕事を働き続けられるような多様な休みの取り方が、介護と仕事の両立の面では有力なのではないかということが言われており、介護休業一本では難しいと思っている。

(事務局) 伊藤委員にお聞きしたいが、諸外国では、近年女性の労働力率が上がるにつれ、出生率が上がるという傾向が出ているが、日本は逆になっている。国際的に見て、女性の労働力率があがると出生率が上がるという傾向があるのかお聞きしたい。

(会長) それについては、OECD のデータではっきりと出ている。女性の労働力率が高い国の方が出生率は上がる。ただ、今、低いのは東アジアと南欧。イタリア、ギリシア、スペイン、それから、日本と韓国。実は、女性が働くとも出生率は下がる。それにも関わらず、なぜ女性の労働力率の高い国で出生率が高いかというと、それらの国では1970年代以降の女性の労働参加が進んだ時に、育児等をサポートする様々なサービスの仕組みを準備してきたので、出生率が維持できている。しかしながら、それらのサポート策が全く準備できていない東アジアと南欧の国々、これらはよく家族主義の国と言われているが、家族主義のパラドックスと言われているが、家族は大切だから、家族のことは自分でやってね、行政は支援しないよ、という姿勢であった。GDP 比の家族政策の支出のデータを見ると、明らかに南欧と東アジアは低い。南欧も東アジアもそうであるが、家族を支える政策を日本は十分にやってこなかったということが少子化の原因を作っていると思う。

(事務局) 日本の中でも、女性の労働力率が高いほど出生率が高いという傾向がある県があり、滋賀県は逆に低い部類にある。傾向が国際的なものということは理解できたが、日本国内でも同様か。

(会長) 例えば福井県では女性の労働力が高いが、福井県は日本の中でも以前から働く女性が多い社会で、三世同居も多いので、祖父母が子どもの世話をするという仕組みがそれなりにできているからだと思う。ヨーロッパの社会のような核家族でかつ男女が働きながらであっても出生率を上げている状態と、日本において、福井県のように女性の労働力率が高いところで出生率が高いという状態とは、ちょっと事情が異なるのではないか。子育てをサポートするインフラが、社会政策で作られているのか、家族で作られているのかという違いかと思う。

(委員) 自身が守山で子育て支援のイベントをしていて強く感じることであるが、県外から来られているお母さんの数が、5年前よりもまた一段と急増している。M 字カーブの県内市町の状況を見た時に、一番 M 字カーブが深い、草津、守山、大津、この辺りは県外から来られているお母さんが非常に多い地域だと思う。

県外から来られているお母さんというのは働いていない方が多い。私の関わりが深いのは、0歳から2歳のお子さんを持つお母さんであるが、結婚等をきっかけに県外から来られている人というのは、この街でどう働いていいかわからない、何も繋がり

がないので、働くことよりも、まずはコミュニティに入ることとか、ここでどのように暮らしていくかということを考えておられる方。そのような方が私たちの企画するようなイベントに多く参加していただいている。滋賀県においてM字カーブがなかなか回復しない状況というのは、背景に継続就労が物理的に困難、あるいはそもそも継続就労をあきらめて夫の仕事についてきて結婚された方が非常に多いこともあると思うので、家族の形態で転入されてきた方の割合等のデータも収集してはどうか。そういう方に継続就労を求めるのは困難であるが、能力・スキルを持った方たちが地域で様々な活躍ができるよう、つなぎをするような取り組みがあると、転入してこられた方も希望が持てるのではないかと思う。

(会長) 議題4「今後の審議会の活動方針について」事務局より説明をお願いしたい。

(事務局) 資料6に基づき説明

(会長) 先の意見交換も含め、意見や質問があればお願いしたい。  
介護の現状というのは、滋賀県で以前データを取っていたと思うので、共有が必要かと思う。滋賀県は男性で介護をしている人の割合が比較的高かったのではないかと。

(委員) 男性介護ネットの会員数や、活動内容を教えていただきたい。

(委員) 全国で600人くらいの会員登録があり、ばらつきはあるが47都道府県に最低1名の会員がいる。

(委員) ファザーリングジャパンでも、イクメンからイクジイ、イクジイからイクボス、イクボスからイクカイゴになっていかないといけないかと考えさせていただいた。新しいお子様を育てて行かれる方々に、介護のことも少しずつ認識をしていただけるようなセミナー等もしていきたいと痛感した。ダブルケアの問題など。

(委員) 貴重なお話で、もっとみんなで深く勉強したいテーマのお話をいただいた。伊藤委員のマクロの話も大変勉強になった。昨日、湖国女性農業・推進委員協議会の研修会に出席し、農林水産省の就農・女性課長さんに講演いただいた。その中でも、女性が経営陣に加わっている方が業績がいいというデータを出されていたことを聞いたばかりであり、女性の活躍が経済効果を生むということが理解できた。意見交換のテーマとして、女性の経済的エンパワーメントを図るための取り組みをもう少しミクロに落として話しあうのもいいなと思った。また、男性介護も見落としがちなのがあると思うので、マザーズジョブステーションなどで、子育てが重視される中、そこに介護の視点も持ってくるというのもテーマとしてほしいなと思う。あとDVの問題であるが、女性の経済的エンパワーメントと言いながら、一方でマイナスの事象が起こって

いるというところも問題。このように、今日お話しいただいた内容は、どれも今後意見交換していきたい内容であった。

(会長) あと、SDGs については県から情報提供をいただきたい。

(委員) 今回というよりは来年度以降であるが、是非とも多様な性について取り上げていただきたい。教科書等にも LGBT が取り上げられて、いろんな形の性のあり方が認知されてきている。行政のメッセージとして多様な性を含めるべきテーマではないかと思う。

(会長) 県では、人権部局で対応されると言っていたのではないかと思う。確かに、この2年くらいでこのことに関する動きが変化しているので、対応が十分でないところがあったかもしれない。必要な部分である。

(会長) 今後の方向については、本日の意見等を踏まえ、事務局と私の方で調整し、みなさんに連絡させていただきたい。

他に意見がなければ、本日はこれで終了する。

(事務局) 次回は 12 月ごろ開催を予定。